

(別記様式)

平成31年度 府立桃山高等学校(定時制) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>2 基礎学力の向上を図る。</p> <p>3 基本的生活習慣の確立に努める。</p> <p>4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 各学年や各分掌と密に連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。また、生徒会活動を大切にし、多くの校内行事を工夫して成功に導くとともに、クラブでも全国レベルでの成績を収めるなど、多様な生徒に対して各方面で教育成果を上げた。</p> <p>(2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めるとともに、各関連企業・機関との連携指導を丁寧に行い、多くの生徒の進路の実現を目指して粘り強く指導した。</p> <p>(3) 設備面では全日制と併置されている現状において、教務部を中心に校内的な調整を丁寧に行い、教育活動が円滑に進むよう努めた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 安心・安全な学びの場を確保することが学校で学習を進める上での基礎となる。そのため、来年度も継続して取組を進め、学習環境の一層の向上を図ることが必要である。</p> <p>(2) 個々の生徒へ基礎的・基本的な内容を確実に定着させるためには、生徒の状況を踏まえた指導を行うことが重要である。そのため、クラス担任と教科担当者等との意見交流や情報交換を密にして共通認識を確立していくことが必要である。</p> <p>(3) 希望進路実現のためには、進路意識を高めるためのキャリア教育の充実に努めるとともに、学校行事や部活動等への参加を促し、学校生活の定着を図る取組が必要である。</p>	<p>1 卒業を目指し、高等学校に学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。</p> <p>2 生徒相互に助け合い、励まし合う生徒集団の育成を目指し、生徒会活動を大切にしたい取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。</p> <p>3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。</p> <p>4 個々の生徒にきめ細かな指導を通じて、基礎学力の定着と生活習慣の改善を図るとともに、社会性や規範意識の涵養に努める。</p> <p>5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。</p> <p>6 平成30年度各分掌等の総括を踏まえ、学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換をさらに密なるものにするるとともに、課題解決のための取組を進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	安心・安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進	各学年・各分掌との密接且つ有機的な連携により安心安全な学校作りに向けて、まずは生徒が問題行動を起こさないようしっかり啓蒙し指導する。また問題行動が生じた場合は迅速且つ適切に対応する。		
		生徒の学校生活への定着の足がかりである楽しい学校生活をバックアップすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませ、また部活動を通じて人間関係の幅を拡げさせ対外試合へのモチベーション等で目標・目的を持てるよう積極的に参加させる。		
学習指導	充実した教育課程の編成と実施	多様な観点による学習評価の工夫・改善を図るとともに新学習指導要領を見据えた教育課程の構築に向けた取組みを進める。		
	個に応じた学習指導の実践	生徒の学力を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い指導を実践する。		
進路指導	個々の希望進路の実現に向けた取り組みの推進	進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。 個々の生徒の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。		
健康教育	心身ともに健康な生活習慣の確立に向けた取組の推進	健康上の配慮や支援の必要な生徒に対する指導を組織的に推進していく。 生徒の食生活の実態を把握し、食育の一環として、給食を通じた望ましい食生活習慣の確立を目指す。		

事務・施設	<p>学習環境の充実と安全・衛生を確める。</p>	<p>本庁所管課への予算要望と、本庁各課との調整による予算確保に努める。</p> <p>校内巡視による施設・設備の点検を実施し、危険箇所・老朽箇所の早期発見に努め、改修につなげる。</p> <p>学校全体や各分掌の状況を踏まえ、計画的な予算執行に努める。</p>				
	<p>個々の生徒の状況に応じて、就学支援に係る援護制度について適切な対応を行う。</p>	<p>クラス担任との情報交換を密にし、経済的理由により就学が困難になることがないよう、個々の生徒の状況に応じて、援護制度についての適切な対応を行う。</p>				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	
-----------------------	--